

## 「山梨県地震防災シンポジウム」を開催

～山梨県の地震リスクと被害想定を踏まえ、いざというときの備えを学ぶ～

日本損害保険協会関東支部山梨損保会（会長：橋本 貴雄・三井住友海上火災保険株式会社 山梨支店長）では、山梨県、山梨県損害保険代理業協会とともに、10月31日（金）に山梨県甲府市の「かいてらす」で「山梨県地震防災シンポジウム」を開催し、約110名の方に参加いただきました。

今回、山梨県の地震リスクと被害想定を学ぶとともに、日常と災害時の2つのフェーズを分けない「フェーズフリー」という新しい考え方や被災時の経済的な備えについて学ぶことを目的に、パネルディスカッションを含む4部構成とし、開催に先立ち、山梨県防災局の河野 公紀局長、また日本損害保険協会関東支部 山梨損保会の橋本 貴雄会長から開会の挨拶がありました。

基調講演では、日本大学 危機管理学部の秦 康範教授から、「山梨の災害リスクと「フェーズフリー」のすすめ」と題して講演があり、参加者への質問を交えながら、過去の災害も踏まえ山梨県では地震、洪水、土砂、火山噴火と様々な自然災害リスクにさらされていること、被害は想定されているのに、大地震などが起きた際には山梨への支援はすぐには来ないので自主防災組織が重要なこと、また、いざという時にしか役に立たないものを備蓄するのではなく日常生活でも役立つものを、といった災害時と日常を区別しないフェーズフリーの考え方の紹介、正しい家具の固定方法などの身近な防災等について幅広く説明いただきました。

次の事例紹介では、最初に山梨県 防災局 防災危機管理課の中嶋 正樹課長から、「山梨県における地震被害想定について」と題して令和5年5月に公表した「地震被害想定調査」の結果を踏まえ、県内で大きな被害が想定される南海トラフ巨大地震（東側のケース）、曾根丘陵断層の地震のそれぞれにおける被害想定を説明するとともに、建物の耐震化や家具の固定、また消火訓練等で住民による初期消火率を向上させることにより、建物の全壊・全焼被害の軽減、人的被害では死者数を低減させることができるので、物資の備蓄、ハザードマップの確認などと併せてこれらの地震への備えが重要である旨の説明がありました。次に山梨損保会の橋本会長から、「地震による被災時の経済的な備えについて」と題して、大規模な災害への経済的な備えとして公助・共助だけでは生活再建に十分とは言えないため、地震保険などの自助としての備えが重要となること、また地震保険の対象や保険料、支払われる対象の損害や保険金の支払い方などの詳細について説明がありました。

その後、アナウンサーで気象防災アドバイザーの林美穂氏をコーディネーターに、これまでに講演した3名をパネリストとしてパネルディスカッションが行われました。

パネルディスカッションでは、最初に、「日常生活の中でできる自助」についてパネリストからそれぞれ、ハザードマップを確認し家族で話し合い、リスクを認識すること、ローリングストックによる無理のない備蓄、企業目線として「事業継続計画」を策定するだけでなく日常の中で訓練しておくこと、について話がありました。

次いで、「自助の意識を共助の仕組みへつなげるために」として、共助の重要性について秦教授から「これまでの大地震から、地域で助け合うことがとても重要であることがわかっており、普段から隣近所で仲良くしておくことが、いざという時に重要な共助への仕組みに繋がっていく」旨の話があり、共助を推進していくための県としての取組みについて中嶋課長から、「地域防災リーダーの養成に力を入れており、地域の防災活動をけん引していく人材を育てていくとともに、地域の避難訓練など防災活動の支援を通じた住民の方の積極的な関わり、助け合える仕組みの構築を支援していきたい」との話がありました。

パネルディスカッション最後のテーマ「被災した際の生活再建のための経済的な備え」では、行政による補償内容について、中嶋課長から被災者再建支援制度とその申請についての説明があり、それを受け橋本会長より自助としての「地震保険の加入方法」や「家財への加入も併せて検討してほしい旨説明がありました。

最後に、山梨県損害保険代理業協会の土屋 契会長から閉会挨拶があり、盛況のうちに幕を閉じました。

終了後にご記入いただいたアンケートでは、9割以上の参加者から「わかりやすかった、役に立った」との回答があり、「家庭でできる防災対策が参考になった」「地域へフィードバックする」「義援金や被災者生活重建支援金等、保険代理店としての知識の幅が広がった」などの感想が寄せられました。

山梨損保会では、引き続き、関係各所と連携のうえ、防災・減災に向けた活動を推進してまいります。



河野局長による開会挨拶



橋本会長による挨拶



秦教授による基調講演



パネルディスカッションの様子



土屋会長による閉会挨拶



セミナーの様子

## 特別防災セミナーインケート結果

セミナー参加者数 105  
アンケート回収数 73

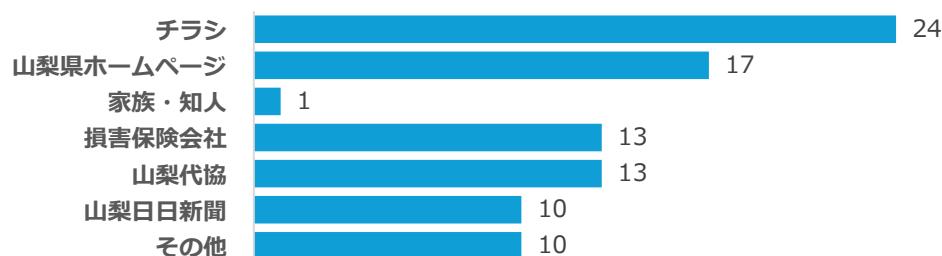
アンケート回収率 69.5%

性別	男	女
	55	13

年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	合計
	1	11	4	11	25	10	11	73
比率	1.4%	15.1%	5.5%	15.1%	34.2%	13.7%	15.1%	

属性 (複数回答)	行政機関	報道機関	損害保険 会社	損害保険 代理店	防災士	その他
	24	1	15	11	13	12

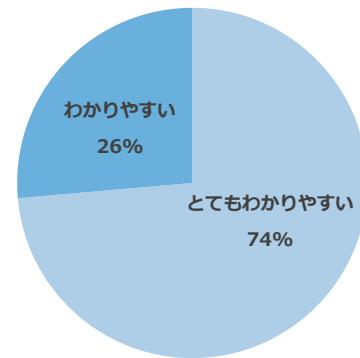
### 1. 本日のセミナーをどのように知りましたか (複数回答)



### 2. 基調講演「山梨の災害リスクとフェーズフリー」のすすめ

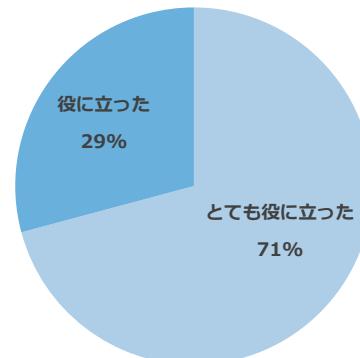
#### (1) 内容は、わかりやすかったですか？

とてもわかりやすい	53
わかりやすい	19
わかりにくい	0
とてもわかりにくい	0



#### (2) 地震に備えるため、講演内容は役に立ちましたか？

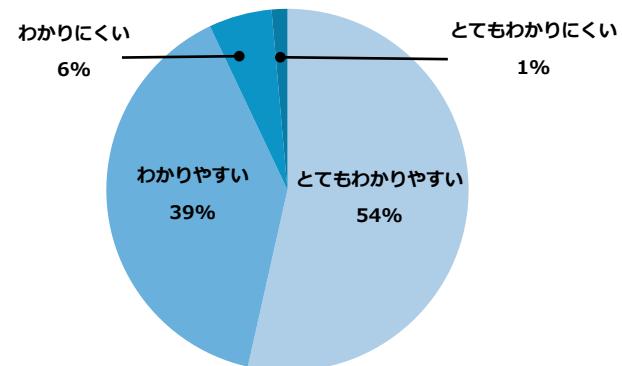
とても役に立った	51
役に立った	21
あまり役に立たない	0
全く役に立たない	0



### 3. 事例紹介①「山梨県における地震被害想定について」

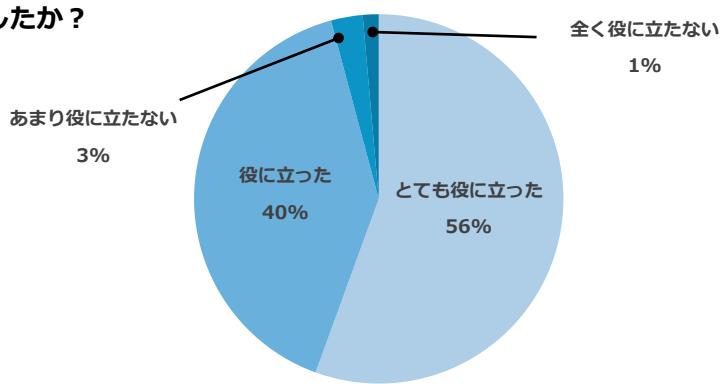
#### (1) 内容は、わかりやすかったですか？

とてもわかりやすい	38
わかりやすい	28
わかりにくい	4
とてもわかりにくい	1



(2) 地震に備えるため、講演内容は役に立ちましたか？

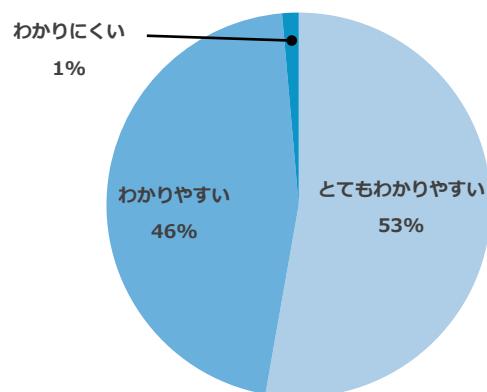
とても役に立った	40
役に立った	29
あまり役に立たない	2
全く役に立たない	1



4. 事例紹介②「地震による被災時の経済的な備えについて」

(1) 内容は、わかりやすかったですか？

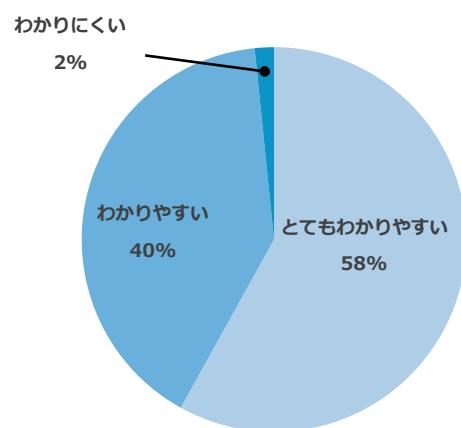
とてもわかりやすい	38
わかりやすい	33
わかりにくい	1
とてもわかりにくい	0



5. パネルディスカッション

(1) 内容は、わかりやすかったですか？

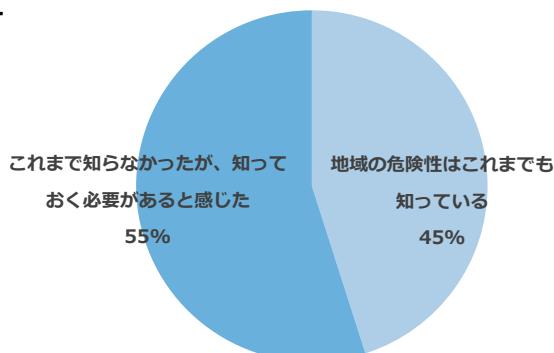
とてもわかりやすい	36
わかりやすい	25
わかりにくい	1
とてもわかりにくい	0



6. 本日のセミナーを聞いて、ご自身の防災への意識がどう変わったかお聞かせ下さい。

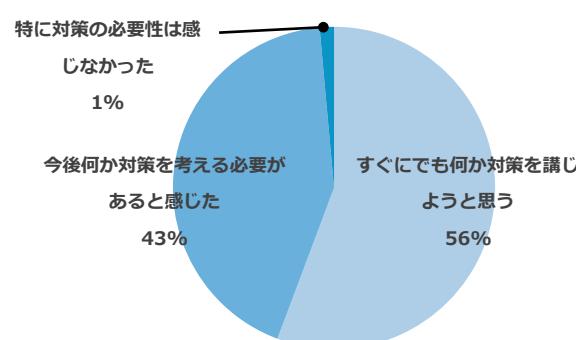
(1) 自分が住んでいる地域の危険性を知ることについて

地域の危険性はこれまで知っている	32
これまで知らなかつたが、知つておく必要があると感じた	39
あまり必要性を感じていない	0
よく分からない	0



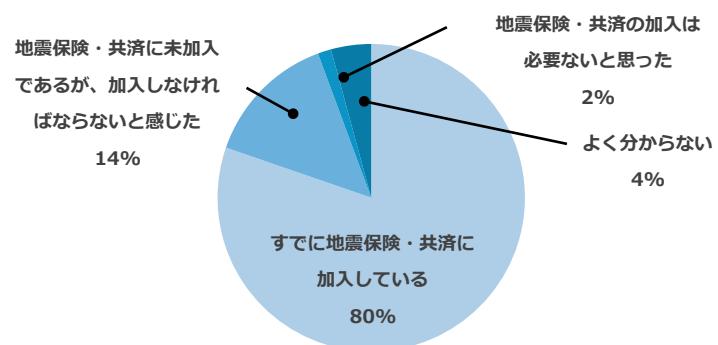
(2) 家庭で出来る防災対策について

すぐにでも何か対策を講じようと思う	39
今後何か対策を考える必要があると感じた	30
特に対策の必要性は感じなかつた	1
よく分からない	0



(3) 自助としての地震保険・共済の加入の有無や必要性について

すでに地震保険・共済に加入している	57
地震保険・共済に未加入であるが、加入しなければならないと感じた	10
地震保険・共済の加入は必要ないと思った	1
よく分からない	3



(4) 【(3)で②、③を選択した方】地震保険・共済に未加入である理由について（複数回答可）

保険料が高いから	4
地震保険では自宅や家財を再建するために十分な補償が得られないと思うから	1
これまで地震保険への加入をすすめられなかったから	3
その他	2

